

長期交換留学 オーストラリア ウーロンゴン大学

滞在期間 2006年2月～11月

経済学部 国際経済学科 四年 堀内 優子

私は、大学三年生の二月から九ヶ月間、大学の長期交換留学を利用し、オーストラリアのウーロンゴン大学で正規授業を履修してきました。

そもそも、なぜ留学を考えたかという点、語学の向上というよりも、大学時代に自分の世界を広げなかったから、また新しい環境に飛び込むことで、多くの出会いややりがいを見つけられるのではないかという期待があったからです。

留学当初は、期待とは裏腹、多くの課題に悩まされたり、異なる文化に自分を適用させることに苦しんだりもしましたが、一つ一つの壁を乗り越えるうちに、自分の限界を広げる事自体を楽しむようになりました。また、多くの人との出会いから、自分自身を振り返る機会が多く、何事にも挑戦する心構えを身につけることができたと思います。

ここでは、大学寮の生活や授業への取り組みなどを中心に述べていきたいと思います。

私の留学先であるウーロンゴン市は川崎市との姉妹都市であり、鉄鋼業で発達した町で、シドニーから電車で二時間半南下した浜辺のとても美しい町です。週末には老若男女関わらず、多くの人々が浜辺でサーフィンやジョギングなどを楽しみ、皆美しい浜辺を誇りに思うところが印象的でした。

滞在先は、インターナショナルハウスという国際色豊かな寮で前期は過ごし、後期は大学のアパートメントでインド人とオーストラリア人との共同生活をしていました。

寮では学生たちが主体となってたくさんのイベントが催され、スポーツ大会や・インターナショナルディナーなどもあり、オーストラリアの現地学生や、欧米・アジア圏からの留学生たちと一つ屋根の下に暮らす大家族のような生活をしていました。また、日常生活で困ることがあれば、すぐに相談に乗ってくれるサポートスタッフがいるので、安心して日々の生活をする事が出来ます。

私たち日本人もジャパニーズパーティーを企画し、厨房の料理長との打ち合わせから準備をしました。当日は200人もの寮生たちに日本食を作り、日本食といえばお寿司という固定概念がある海外の方に豊かな日本の文化を理解してもらえたことはとても良い経験になりました。

ウーロンゴン留学での授業は、二学期分、大学での正規授業を履修するものでした。私は前期に英語・オーストラリア文化・スペイン語、そして後期は言語学・アボリジニー文化、マクロ経済学、東アジア経済関係を履修しました。授業にもよりますが、一教科で貸される課題は、毎週のリーディング・エッセイ・プレゼンテーション・最終エッセイなど多くの課題があるため、他教科の授業課題と両立させるには、時間管理を求められます。

現地に到着し、一週間後にはもう授業が始まり、英語が分からない上、専門知識を得る授業にはどう対処していいのか分からず当初はとても苦労しました。しかし、英語が母国

語ではない留学生への英語の授業で基本的なエッセイの書き方や、西洋の勉強スタイルを学びつつ、オフィスアワーなどを利用して担当教授へ質問を繰り返していくうちに徐々に勉強のペースが出来てきました。

エッセイ前や試験前は空き時間があれば、大学の図書館で7時まで勉強し、寮の仲間との夕食後、夜まで勉強をするという生活をしていました。

課題や試験・エッセイ提出が重なり大変な時期もありますが、寮に帰れば家族のような暖かい仲間たちが支えてくれたため、多くの支えのもと、自分の納得できる結果として、授業の満足度も高く、全単位取得をすることも出来ました。

また、現地でなくては決して学ぶことの出来ない原住民と白人との歴史や問題点を多角的に考える授業により、歴史に反映されない事実を目を背けるべきではないと学び、私も日本人として広い視点で自国を知る責任を持たなければと思いました。

留学先では一人で出来ることは限られています。分からないのであれば分からないと自分の立場をアピールするなど、自ら積極的に動いていかないと授業についていけなくなってしまいます。ですので、多くの資源（図書館・教授・友達）をうまく利用し自分のペースを早く掴むといいと思います。

また、授業以外で気をつけていたことが、交流範囲を狭めないことです。大学の授業では授業時間に顔を合わせるくらいの友達しかできませんし、多くの学生が滞在する寮にいても同世代の学生たちが集まってしまいます。自分で生活を賄わないという、ある種現実味を感じない留学生として過ごしているのでは、現地の実際の生活様式を肌で感じる機会は少なすぎます。私はよりオーストラリア生活を肌で感じたかったので、カンパセーションパートナーに応募し、パートナーの家族と一緒に行動することで、世代を超えた交流ができ、現地で生活する人と同じ視点に立つことができました。

ゼロから始める留学生活では、自分の行動力次第で、たくさんの経験を積み充実させることも、仲間同士で固まり変化を避けることもできるのです。自分を成長させるために決意した長期留学、何事にも挑戦することが大切だと思い行動してきました。

留学をして学んだことは、自分の概念にとらわれず、常にアンテナを張り、チャンスを見つけたならば、そこに自分から飛び込む積極性と柔軟性を持つことです。自分の可能性を狭めることの無いよう、新しいことに飛び込む姿勢を今後もずっと持ち続けようと思います。

留学後は、以前苦痛であった語学の勉強がとても楽しいものになりました。それも語学が多くの人をつなぐこと、また相手の文化を理解する姿勢が国際社会ではとても重要であると心得たからです。今後は、第二外国語として勉強していた中国語に重点を置き語学力を向上させたいと思っています。国際的にも活躍できる社会人となれるよう、英語・中国語の語学スキルを磨き、人間性・経験値をも高めるよう今後とも努力していきたいと思っています。